<table>
<tr><td colspan="3">団体名</td><td>沢内村スノーバスターズ　(岩手県沢内村)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">団体の概要</td><td colspan="2">活動開始年</td><td>西暦　1993 年　12 月　活動開始</td></tr>
<tr><td rowspan="2">メンバー</td><td>人数</td><td>＜役員数＞　11 名　　＜事務局スタッフ数＞　2 名
＜ボランティア数＞　207 名　　＜賛助会員数＞0 名</td></tr>
<tr><td>構成</td><td>【社会人】109 名　【高校生】14 名　【中学生】84 名</td></tr>
<tr><td colspan="2">予算規模</td><td>平成１３年度概算
･収入 255,000 円
･支出 170,000 円</td></tr>
<tr><td colspan="3">団体の目的</td><td>村内に居宅する一人暮らし高齢者などの居宅及び居宅周辺の雪かきをする。</td></tr>
</table>

①ボランティア活動の概要

ボランティアが 10 班に分かれて、希望のあった家の雪かきを行う。屋根から落ちた雪で窓が割れないよう、また、窓を隠して部屋の中が暗くならないようにするため、ボランティアが雪かきをする。生活道路を確保するためにも雪かきは必要である。屋根上の雪かきが必要な場合もあるが、勾配のある屋根での雪かき作業は危険なため、初心者に近いボランティアではなく、雪かきに熟練した人に任せている。

毎年 1 月から 3 月の第一日曜日を統一活動日として行い、その他は班長の判断により随時、出動している。

②ボランティア活動を立ち上げた経緯

秋田県との県境に位置する沢内村は、四方を奥羽山脈に囲まれた日本でも有数の豪雪地帯である。年間の降雪量は 450㎝、毎年 1.5m 以上も雪が積もるため、特に 1 人暮らし高齢者世帯や、高齢者夫婦世帯、母子世帯、障害者世帯では雪かきがままならない状況にある。こうしたことに配慮して、1990 年から村の青年会活動として年に 1 回、ひとり暮らし高齢者の住宅の雪かきを始めたことがスノーバスターズの原点である。

1993 年頃に、社会福祉協議会が催した地域福祉座談会で、除雪作業の困難さが話題にあがった。その背景には、高齢者世帯が増加していること、地域連帯感が薄くなっていることなどが危惧としてあった。そこで、これまでの青年会を中心とした活動を組織化して継続的な活動にしようということになり、沢内村スノーバスターズが結成された。

③元気に活動している要因

＜要因１：わかりやすい活動である＞

雪かきをすることにより「お年寄りに喜んでもらえる」「人の役に立つ」という、やりがいの持てるわかりやすい活動であることから、ボランティア活動への入門として、中学生、高校生などの参加が増えている。「やってよかった。またやりたい」という思いから、一度参加した人による口コミや、リピーターも多い。

＜要因２：地域の多様な資源を活用している＞

雪のシーズンになる前に民生委員やホームヘルパーに依頼して、雪かきを希望する世帯や雪かきが必要な世帯の調査をしてもらっている。また、シーズン中にスノーバスターズが出動する決め手となる情報は、住民から寄せられるほか、郵便局の配達員や宅配便の運転手などに積雪状況の情報提供をしてもらう。地域の多様な資源とともに、きめ細かに高齢者の生活を支えている。

＜要因３：村外の活力とも交流＞

沢内村のほか、湯田町、松尾村、安代町、雫石町の５町村が参加して、岩手県スノーバスターズ連絡会を発足し、情報交換をしながら進められている。現在では 15 市町村と大きな広がりを見せ、マスコミからも注目を浴びるようになり、沢内村以外からの参加者が増えることにもつながった。村内のボランティアは約 200 名、村外からは 140 名ほどが参加している。

＜要因４：コーディネイト機能の確保＞

青年会が雪かきをしていた頃は、年に１回のイベント的な活動であった。沢内村社会福祉協議会が事務局機能を担うことで、それまでの活動を活かしながら、定期的な活動が行えるようになった。村外からの問い合わせにも事務局が対応することが可能になり、必要な班にボランティアを適切に配置することができている。参加者が雪かき活動を行う際の万が一の事故に備えて、社会福祉協議会が扱っている安価なボランティア保険に加入できる利点もある。

④今後の課題と展望

スノーバスターズの主な活動は土・日曜日なので、平日に非常事態が起きたときの対応が難しい。平日には仕事を持っている人も多いため、学生など若い世代に協力してもらうことが不可欠である。

（団体事務局によるレポート、団体事務局へのヒアリング調査、団体資料より作成）

＜スノーバスターズによる雪かきの様子＞

＜この事例のポイント＞

雪かきを通した近隣の助け合い活動は、雪国においては長く取り組まれてきているものである。その既存の活動に、映画ゴーストバスターズからヒントを得たネーミングをつけて、若者の興味をひきつけながらボランティアの参加者を確保している。

高齢者世帯への支援がスノーバスターズの活動であるが、自分ひとりでは手におえない雪かき作業も、ボランティアと一緒だと楽しく快い汗をかくことができるなどの理由で高齢者自身も雪かきに加わっている。除雪をボランティアが応援することにより、高齢者もやる気を起こしている。活動に参加する中高生にとっては、高齢者など異世代交流できる生きた教育現場にもなっている。

また、雪かきという作業は、同じ顔合わせでは単調化する恐れもあるが、村外の人々とともに活動し交流を行うことで、地元の人たちも刺激を受けながら活動ができている。村外の参加者にとっては、豪雪地帯での異文化体験が楽しめる機会にもなっている。

事務局機能が、雪かきを通して新しい交流を創出するのを支援することで、ボランティアが生き生きと活動できる原動力になっているという事例である。